

兵庫県絶滅危惧種のステゴビルの標本



自然・環境再生研究部 生物資源研究グループ

藤井俊夫

ステゴビルは、ラッキョウの仲間のニラやノビルに似た植物で、草原や里草地に生える高さ30cm程度の多年草です。夏に休眠し、秋に緑白色の小さな花を咲かせて冬を越すため、発見することが困難です。中国東南部と日本に分布します。

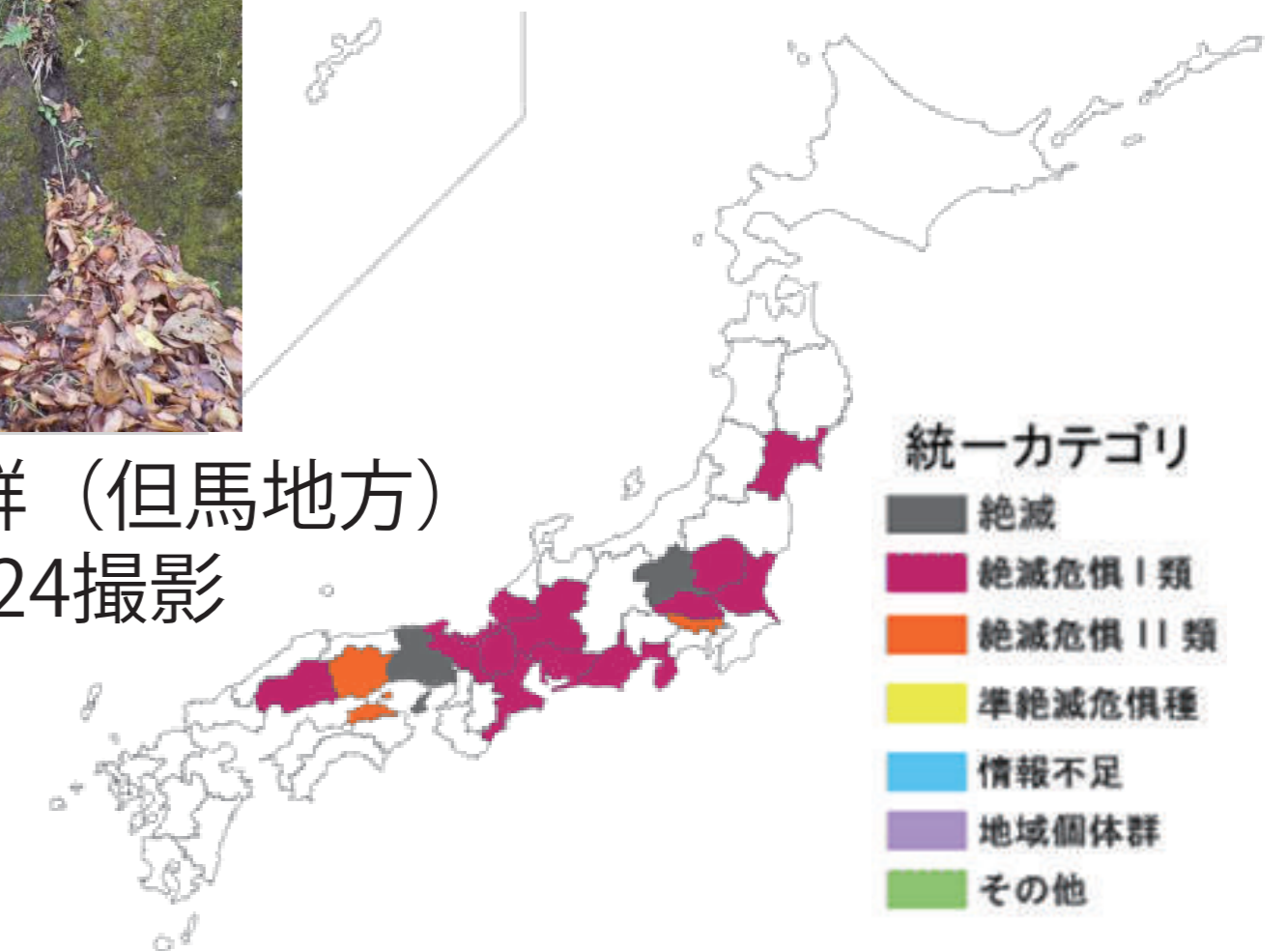
ステゴビルは、日本の植物学の父と言われる牧野富太郎が、1898年に愛知県豊橋市の石巻山で採集された標本をもとに命名記載しました。(G.Nagura, 30 Sep. 1896, MAK)。現地は「石巻山石灰岩地植物群落」として、1952年に国指定天然記念物に指定されました。

日本国内では東北地方から中国地方まで広く分布していますが分布は局所的で、個体数も少なく絶滅が心配されています(右図参照)。環境省のレッドリストでは絶滅危惧II類(VU)に、兵庫県版レッドリストではAランクに指定され、生育環境の保護が必要です。兵庫県では絶滅(Ex)とされていましたが、最近、但馬で74年ぶりに生育が確認され、Aランクに変更されました。現地では近年増加したシカの食害が顕著で、早急な保護対策が必要です。



自生個体群(但馬地方)
2022.Nov.24撮影

ステゴビル(ヒガンバナ科)
Allium inutile Makino
環境省：絶滅危惧II類(VU)
兵庫県：Aランク(VU相当)
2020年版でEXからAランクに変更



日本のレッドデータ検索システム(jpnrd.com)
<http://jpnrd.com/>

●参考文献

兵庫県農政環境部環境創造局自然環境課(編)2021.
兵庫の貴重な自然—兵庫県版レッドデータブック2020
(植物・植物群落)。